

万国の労働者、被抑圧民族団結せよ！

社共にかわる革命的労働者党を創建しよう！

1987年 1月25日

毎月25日発行

第96号 8頁 400円

定期購読料（1部22回）

手渡し 3000円／開封 3500円／密封 4000円

赫 旗

共产主義者同盟中央機関紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

新年号

発行
赤路社

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号

三里塚二期決戦。天皇訪沖阻止に
革命勢力の総力を結集し、孤立深
める中曾根政府に鉄槌を浴びせよ



紙面案内

- | | | | | | | |
|-------|------------|-----------|----------|------------|------------|------------|
| 八面 | 七面 | 六面 | 五面 | 四面 | 三面 | 二面 |
| 織せよ | 労働者の政治決起を組 | 地対協意見具申批判 | (上) 松下 隆 | 天皇制をめぐる諸分析 | 三黒塚、越冬闘争報告 | 天皇沖縄上陸を実力阻 |
| 信を握れ | 信二 | (最終回) | 高橋 寿一 | 止せよ | 諸戦線からの年頭アピ | 止せよ |
| 深山 和彦 | | | | | | |

1987年1月1日、用地内横堀に三里塚二期監視鉄塔建つ

労働者の政治決起を組織せよ

大失業時代を迎えた階級的布陣にむけて

山村信二

決定的な 転換点

八七年は日本労働運動にとって
決定的な転換点となる。

とする現代版産業報国会づくりが完成過程に入り、日帝の危機との矛盾が、労働条件引下げ・増税という搾取収奪の強化の中で、「大失業時代」として噴出する。旧来どおりやつていけない支配階級と国家権力に既成野党は雪崩を打って屈服し、その大波は一部新左翼にまで及んでいる。だが、一見混沌を深める労働運動に、革命的激動を推進する新しい芽も萌え始めている。日雇金協のたたかいがそれである。

三千人余、海運一千人余、電機一千三百人の「生首」がとぶ。これに「時帰休」や「出向」「逆田向」「配置転換」などの「人員削減」、さらに合理化の大嵐の中でこれら企業と直接の雇用関係をもつ本^レ等の労働者は數十万の規模で駆逐されることになる。

これぞ独占の首切り・合理化攻撃は、重層的下請制の産業構造においては「玉突き」的に、しかもその規模を加速度的に拡大しながら、下請け企業労働者に襲いかかる。そして、失業の危機はプロレタリアア卜層に集中し、彼らは真先に地獄絵の中に叩きこまれる。それは、不斷に現役層の労働条件を悪化させ、資本家と労働者の階級關係をつづきがない状態へと押連日、対金町戦を闘う全協と支援団日雇千人余、海運一千人余、電機一千三百人の「生首」がとぶ。これに「時帰休」や「出向」「逆田向」「配置転換」などの「人員削減」、さらに合理化の大嵐の中で駆逐されることになる。

これぞ独占の首切り・合理化攻撃は、重層的下請制の産業構造においては「玉突き」的に、しかもその規模を加速度的に拡大しながら、下請け企業労働者に襲いかかる。そして、失業の危機はプロレタリアア卜層に集中し、彼らは真先に地獄絵の中に叩きこまれる。それは、不斷に現役層の労働条件を悪化させ、資本家と労働者の階級關係をつづきがない状態へと押連日、対金町戦を闘う全協と支援団日雇千人余、海運一千人余、電機一千三百人の「生首」がとぶ。これに「時帰休」や「出向」「逆田向」「配置転換」などの「人員削減」、さらに合理化の大嵐の中で駆逐されることになる。

これぞ独占の首切り・合理化攻撃は、重層的下請制の産業構造においては「玉突き」的に、しかもその規模を加速度的に拡大しながら、下請け企業労働者に襲いかかる。そして、失業の危機はプロレタリアア卜層に集中し、彼らは真先に地獄絵の中に叩きこまれる。それは、不斷に現役層の労働条件を悪化させ、資本家と労働者の階級關係をつづきがない状態へと押連日、対金町戦を闘う全協と支援団日雇千人余、海運一千人余、電機一千三百人の「生首」がとぶ。これに「時帰休」や「出向」「逆田向」「配置転換」などの「人員削減」、さらに合理化の大嵐の中で駆逐されることになる。

「労働運動」は、この「失業」打開の方向を示せないばかりか、むしろ失業を二つに分断し貯蔵を強め、失業労働者を国策動員して、あるいは軍隊へと狩り立て、戦争遂行国家体制へと労働者を統合し、貿易市場のシェアを高め、高度機械工業製品を先に一段とその支配力を強め本は、産業構造を急速に一歩後退する。恐慌以降、慢性的な過剰生産

て「發展」する。

一方、中核派は、「全國鐵勞動者ストライキをめざす党派・潮流」と越えた大同団結」を呼びかけ、反革命革マル派の敵対をほねのけて「総連合」をたたかいとした。だが、彼らは、「國鐵分割・民営化問題」とは、つまるところカクマル問題だ」と主張し、「國労中央の制服をのりこえ、國労の防衛・強化・決起を」呼びかけるなどまとっている（「戦闘宣言」）。

これらの主張は、帝國主義国家

革命に走った革マル派を先頭とする社会排斥主義潮流と対決していくのストライキをめざす党派・潮流をくには、すでに命脈を絶ち切られ、くには、すでに命脈を絶ち切られ、危機的・激動的時代を迎える革命的・非妥協的・実力的なたたかいと組織へと転換させていく意識的などりみが求められている。

事実、「労働協約」をめぐる旧來のとりひきに安住していた「国労左派」「組合主義勢力」は、全国規模で脱落はじめめた。だが、職場がなくなつたわけでも下部の反

革命に走った革マル派を先頭とする社会排斥主義潮流と対決していくの「労働力誘導政策」に踏みこんでいるのである。

もはや、現國労執行部に代表される民同左派（それに追随する「左派」も含め）の権利防衛の路線はたたかいの武器とはなりえない。「未組織の組織化」も、六〇年代終評路線の焼き直しにしてない。伊東岱介の「中小企業労働者対策」や清水慎三の「ゼネラルユニオン構想」の空文句では事態に対応できない。

超過利潤は、国内において	生活の名の下に、政府財	選手に新たに投資分野の	争奪し、その政治委員会を	祭字の名の下に「行政改	刑簡接税導入企画の收奪
労働者人民への犠牲を強	め代後半を席捲せんとして	失業の時代」とは、米帝	が、これは歴史的破壊をとげた絶	(第四インター)と主張する。だ	するための共同作業をともに」
失業の時代」とは、米帝	組みこまれつ展開さ	物でもないことをはつきりさせな	ければならない。	が、労働運動を美化し、労働者階級	の革命的任務を雲らせる以外の何
自然的に産み落とす事態で	過剰利潤のオーボレにすぎ	産者が「日本産業の空洞化反対」	それは、社会除外主義の日本共	産党が「日本産業を守れ」と曰帝を擁	金團)とか、「右派の分裂策動と
都市部の支持層」として	國主義村民・労働貴族に	し、「生活と平和と民主主義を守	り政治革新をめざす広範大勤労國	民の運動」(統一労組懇)に労働	対決し国労を防衛しよ」(建党協

